

【東京臨海高速鉄道（株）】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

内陸部の既成市街地と臨海地域とを結ぶ大動脈としての公共交通機関の担い手

重要課題 ①

東京2020大会の開催に加え、沿線地域の更なる開発や東京国際クルーズターミナルの開業等が見込まれる中、輸送サービスの向上や沿線地域の活性化への貢献をどのように進めていくか

検討の状況や今後の方向性

- 近年、臨海地域を訪れる人は、東京2020大会の開催、国や自治体による様々な観光振興策等を背景に、訪日外国人客を含め増加の傾向にある。
- こうした背景を踏まえつつ、多様化するお客様の輸送ニーズに着実に応えていくため、ハード・ソフト両面からのサービスの質的向上を図っていく。
 - ・インバウンド対応 ⇒ 多言語対応の駅案内サインや多言語対応券売機の設置、2か国語車内放送の実施、駅コンシェルジュの配置
 - ・施設・空間整備 ⇒ 有人改札の窓口拡充、化粧室リニューアル、照明LED化等
 - ・お客様ニーズの把握を踏まえた一層のサービスの改善
- また、周辺施設とのタイアップ事業等、臨海副都心まちづくり協議会を通じた沿線企業との連携強化や環境事業活動等の積極的な取組により、沿線のバリューアップを図る。

【東京臨海高速鉄道（株）】の課題と今後の方向性

重要課題 ②

東京2020大会を背景とする安全・安定・安心輸送の取組推進

検討の状況や今後の方向性

- 東京2020大会では、沿線地域において、多数の競技が予定されるため、大会期間中における安全・安定・安心輸送の確保に向け、社をあげた取組を進めている。
 - ・深夜時間帯における運行ダイヤの拡充
 - ・多客対応が可能な体制を構築し、お客様のご案内や誘導対応などの駅業務の充実
 - ・監視カメラの増設や警備員増員によるセキュリティ強化、警察等と連携したテロ対策
- また、大会も背景に、アクセシビリティ確保や安全対策の更なる充実を図ってきている。
 - ・アクセシビリティ対策 ⇒ エレベーターの増設・拡充によるバリアフリー化
 - ・安全対策 ⇒ ホームドア設置などホーム上の施設整備
国際展示場駅(2018年度設置済)、大井町駅(2019年度設置予定)、ほか3駅で設置推進
- 大会時の取組で培われたノウハウや経験を踏まえ、ハード・ソフト面のレガシーを着実に継承し、更なる安全・安定・安心輸送の実現を図っていく。